

第25回福島県農民連 女性部協議会総会

女性が出番

身近なところから

ワクワクする取り組みをひろげよう!

参加者の感想

講演を聞いて表示だけで判断しては身体に良くないものもあるのだと実感。話を聞けば聞くほど自分たちで作った米が一番安心かなと感じました。安くておいしいものに隠れた危険を知ることができ勉強になりました。ミニ産直市で買った腰かごと帽子が家族に好評でした。冬の間、籠の作り方や帽子の作り方講座をやったら楽しいかと思ひます。 安達地方農民連 菅野 まゆみさん

総会の時間が短く提案された内容を深められなかったと思います。種を守る活動を何らかの形にしていけたらと思います。自家採取、固定種や国内採種の大切さなどの学習会を企画してほしいと思います。

会津農民連 渡部 よしのさん

県内各地から多くの方が集い、しばらくぶりでお会いした方々と話に花が咲き、産直交流では手作りの品であふれ元気をいただきました。女性の自立には①自分の収入を得る②役割が認められる③決定の場に出るという話に納得、八田さんの話には改めて国産の重要性、地産地消の大切さ、食の安全・安心が農民連の活動につながっていると思いました。

須賀川農民連 渡辺三起子さん



小規模、家族農業の果たす役割が見直され、持続可能な農業が世界的な流れになってきました。2019年から10年間を「家族農業の10年」とする取り組みが世界各国に広がっています。昨年12月には「農民の権利宣言」が国連で採択されました。

家族農業を担う女性と持続可能がキーワード

「緑の革命」と呼ばれる化学肥料や農薬の多投により、わずか70年で世界中の土壌の劣化が進み、生産力が低下しています。今までの食料や農業政策では世界的な食料危機、環境問題が解決されないことが、世界中で認識されるようになりました。

世界中に広がる土壌の劣化

春雪の降る3月31日(日)、大玉村の西部ふれあいセンターで第25回福島県農民連女性部協議会総会が開かれました。午前の総会、午後からの講演会を合わせ56人が参加、農業の置かれている状況や食品分析から見えてきた問題などを学習しました。



要求にそった多彩な活動を

総会では女性の活動を大きく広げるためにも外に出る取り組みを強化したいこと、単組や支部、班などの身近なところで活動を広げることなどを確認しました。各単組からの報告では要求を出し合い多彩な取り組みが行われていることや活動予算を大きくしたこと、農民連以外の人を巻き込んだ種子問題の取り組みをしたことなどが報告され、女性部でも種子問題に取り組んでほしいとの要望が出されました。

昼は二本松市東和で餅加工に取り組み「游雲の里」のお弁当を食べ、春の香りのするお弁当に食材の豊かさが感じられると好評でした。また、ミニ産直市を開催し手作りの小物や加工食品など大盛況、空くじなしのくじ引きではあちこちから笑いがあふれました。

食と農の安心、安全のために

午後からは農民連食品分析センター所長の八田さんから「ネオニコチノイド系やグリホサート系農薬はどうして今話題になっているのか」についてお話をしていただきました。同じ輸入農産物でも冷凍したもののは検査がスループス、電子レンジで加熱しても固まらない卵の黄身の謎、油を注入した干物の魚など驚くことがたくさんありました。ネオニコチノイド系の農薬が農家だけでなく一般家庭でも害虫駆除や園芸用に広く使われていること、EUなどでは予防原則で使用が禁止になる中、日本では残留基準値が緩和されてきていること、また輸入小麦の多くからグリホサートの残留が検出されていることなど食の安全が脅かされている実態が話されました。学習や研修を通じてより安心安全につなげる栽培に挑戦していくことが求められています。また、農民連分析センターの果たす役割が大事、強化募金やサポーター登録で支援を広げていきたいと思います。

みつばちかだんプロジェクト



ミツバチが減っていると言われ、その原因に農業の問題と合わせ、蜜源や花粉が減っていることも考えられています。一年間花をリレーし蜜源になる環境作りの取り組みが始まっています。レンゲ、クローバー、ヘアーベツチ、蕎麦の種を撒いてまずは観察してみることから始めてみませんか。



詳しくは農民連分析センター ☎03-5926-5131

農民連フラッシュ flash

県南農民組合に女性部復活!

税金申告を終え春の農作業間近の3月20日、白河市きつねうち温泉で女性部再結成をしました。参加者は5名でしたが、一人一人が自分の農作業の様子や困難さを語り、農業あるある話には一同うなずきながら大笑いし、楽しいひと時を過ごしました。周りの女性たちに声掛けしながら女性部を大きくしていくこと、秋には収穫祭を女性部主導で開くことなどを計画しました。



第50回 3.13 重税反対全国統一行動福島県中央集会

3.13 重税反対行動が今年50回目の年、農民連からも約120名が参加。「伝統を引き継ぎ、納税者の権利が守られる政治の確立を求めて行動を強めていきましょう」と集会アピールが提案、採択されました。その後、税務署までのデモ行進で街中に怒りのこもったシュプレヒコールを響かせました。



NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介 若き農業者のつみやきのーと せいねんぶ農人

郡山市石筵養蜂園で養蜂業をやっています。冬の休暇が終わり、春の桜が咲きだすと、蜜蜂と養蜂の季節がやってきます。花が咲いている期間しか蜂蜜が採れません。今年も蜂蜜が採れるよう、頑張ります。 by後藤(郡山)

